令和４年度とくしまエシカル消費推進会議
概要

・日時：令和５年３月１日（水）午後１時から午後２時まで
・開催方法：Web 会議
・概要：
（１）とくしまエシカル消費推進会議の概要について
　　徳島県から説明

（２）消費者庁新未来創造戦略本部のエシカル消費の取組について
　　消費者庁新未来創造戦略本部から説明

（３）徳島県のエシカル消費の取組について
　　徳島県から説明

（４）会員による取組事例報告及び意見交換
　　会員による事例報告は次のとおり。

○国立大学法人　鳴門教育大学
　今年、環境に配慮した消費を促進するため、大学内にウォーターサーバーを設置した。冷水、常温水、熱湯がそれぞれ出るもので、マイボトルに汲んで利用できる。以前は足で踏むタイプのものを設置していたが、コロナ禍で利用頻度が低くなり、廃止することになった。今回の新規設置により、プラスチックゴミの削減や水の輸送コスト削減に貢献したい。また、これらの目的について学生の理解が進むよう、啓発資材を作成し掲示している。時々学生が水筒をもって水を汲んでいる様子を見かける。冬のせいか、行列ができるほどではないが、暑くなったら利用者も増えると思うので今後が楽しみである。月々4,000 円程度と費用もあまりかからないので、おすすめしたい。
　他にも、飲料商品に対するアンケートを行い、今後の対策を検討している。飲み物に着目することで、日々の消費も全体的見直せるようなキッカケになる。次年度以降は、アンケートの内容を踏まえ、活動内容を検討したい。

○障がい者就労支援センターかがやき
　就労継続支援Ｂ型事業所として農作物やお弁当等を製造しているが、規格外野菜の食品ロスが生じないよう乾燥野菜にする、お弁当やお菓子に使用する等、日頃から取り組んでいる。また、我々の商品をより多くの方に手にとってもらえるよう、色んな形での営業や活動を行っている。例えば、イオンモールでは我々の商品を設置させていただいている。商品の認知度をあげるよう、我々としても工夫をしているが、販売スペースの確保について、今後も

ご協力いただきたい。

他にも、月 1 回子ども食堂を行っている。子ども食堂では、フードドライブも行っており、各職員や関係事業者から収集した商品を保護者に持って帰っていただいている。子ども食堂事業をはじめて約 1 年経ったが、かなり人気がある。お弁当は常に消費される状態で、参加者も楽しみにしている。フードドライブ事業で集めた商品もロスが生じないように注意している。

他にもエコバックの推進活動や食器を曲げにする等の活動も常時行っている。今後の新しい活動、特に製造現場でできるようなこと等、アドバイス等いただけたらお願いしたい。

○イオンモール株式会社イオンモール徳島

我々自身もエシカル消費の啓発としてイベント等を行っているが、地域や行政の方々等、エシカル消費ならびに SDGs のアピールの場として非常に多くの方々にご利用いただいている。昨年は 52 回、エシカル消費や SDGs のアピールの場としてご利用いただいており、今後も取組発信の場としてご利用いただければ、と思っている。週末であれば約 3 万人のお客様が訪れるため、啓発や取組発信の場としては最適だと感じている。

他県にも店舗をもっているが、エシカル消費に関してはかなり徳島県では反応が良いように感じる。我々もエシカル消費・SDGs に取り組んでいるため、ご協力できる部分があれば、お声がけいただきたい。今後もよろしくお願いしたい。

○株式会社阿波銀行

弊行の取組として、一昨年度から我々もフードドライブ事業を開始している。11 月には行内で職員から食品を集めて、四国アライアンスフードドライブ事業を開始した。協定を結んでいる百十四銀行、伊予銀行、四国銀行にもご協力いただき、四国一帯で取り組んだ。また、昨年、フードバンク徳島に阿南の拠点ができたということもあり、阿南支店ではフードバンク事業の啓発イベントを開催した。

○喜多機械産業株式会社

弊社も、各営業所で整水器を置き、プラスチックボトルの使用を減らす取組や、各家庭の食品を集めフードバンクに提供する等といった取組も行っている。

独自の取組としては、建設機械でグリスを大量に扱うため、それを自然由来の生分解性グリスに全て切り替えた。またこの取組の更なる拡大のため、販売も開始した。整水器もあわせてお客様に提案する等、私たちだけがエシカル消費を意識するだけでなく、エシカル消費の普及活動にも力をいれている。

また、社員間でエシカル消費の意識を高めるため、エシカル消費リレーという取組を行っている。ランダムに社員にふっていくのだが、ふられた社員には「私は○○というエシカル消費に取り組んでいる」とリレー形式で公表してもらう。このような取組を行うことで、少しでもエシカル消費について考える機会を作っている。また、他の人のエシカル消費の取組について知ることで、

「それ、いいな」と思い、自分にも新たな発見がある。社内で動画を撮影して都度発信することも行っているが、伝わりにくいと感じる部分がある。一方的に発信するだけではなくて、社員みんなでエシカル消費について考える機会を増やすように心がけている。

○株式会社アゲイン

弊社は古い着物や帯等を主な材料としているが、この頃は日本よりも外国の方からの人気が高まっているように感じる。今後は海外にむけて事業展開を考えていきたいと考えている。また、様々な事業者とコラボレーションして、箪笥に眠っていて廃棄寸前のものにまた付加価値をつけるような取組をはじめているところ。

○ＪＡ東とくしま

2 月に第 12 回オーガニックエコフェスタをみはらしの丘あいさい広場で開催した。ここ数年はオンライン併用のハイブリッド型で開催をしていたのだが、今年はマルシェや食べられるコーナー等、対面型の催しも久々に行った。

また、全国の農産物を競いあう「農産物コンテスト」を行っており、今年は 500 ほど集まった。コンテストでは、糖度やビタミンＣ等といった指標をもとに、中身を分析し、それぞれの農産物の栄養価の高さを競う。コンテスト優勝者の農産物は、オーガニックエコフェスタの「エシカル農産物コーナー」に設置し、販売を促進した。

他にも、今回新たな取組として農林水産省の「もっと野菜を食べよう」という事業を通じ、ベジメータという野菜の摂取量をはかれる機械を 2 日間設置した。約 480 名の方が測定されたのだが、全国 373g の推定野菜摂取量だったのに対し、徳島はそれを上回り、全国 1 位の結果だった。数日前に幕張メッセで行った類似イベントでの平均は 274g だったので、県民がいかに野菜を摂取できているかわかった。県民の関心も高いと感じたため、今後も定期的に測定したいと考えている。

消費者政策課や同会議の会員の皆様とも連携し、フェスタや様々な事業において魅力的な内容にしていきたいと思うので、引き続きご協力をお願いしたい。

○徳島文理大学

本学では４つの柱を中心に取り組んでいる。１つ目は SDGs 研究開発。陸上養殖技術を利用したあおさのりの開発等に取り組んでいる。２つ目は SDGs 教育の推進で、ジビエ料理の開発や上勝町でのフィールドワーク等を行っている。３つ目の消費者教育の推進では公開講座や講義で消費者問題を学ぶ場をもうけている。４つ目としては地域との連携を行っている。そのなかでも、Table For Two の取組を 2010 年から始めたのだが、毎週火曜日に食堂でヘルシーランチを提供している。Table For Two は日本で始まった事業で、カロリーを抑えた食事を提供し、食事代の一部をアフリカの学校給食支援にあてることで、先進国の肥満と開発途上国の飢餓を同事に解決することを目指したプログラムである。

○有限会社ハイプラ

県から環境アドバイザーとして派遣された県内各地の小・中・高等学校で、「プラスチックをゴミにしない」を理念し、ペットボトルキャップのリサイクル事業の仕組みを説明し、ワークショップ等を開催している。子ども達からは感想の手紙等をもらう等、大きな反響がある。また、事業者にむけて持続可能な仕組みに変えるような事業提案をしている。例えば、四国大学にはキャンパス内のペットボトルキャップをリサイクルしてペンとして再生する等、ご協力いただいている。

○徳島県立那賀高等学校

我々は、不要となった服を回収し、第二の命を吹き込む「服活」活動を主にしている。集めた衣服を無料譲渡しているが、今年度はこの活動をはじめて 6 年目となる。今年は約 4,870 枚、6 年間を通じて累計約 12,824 着を回収できている。卒業後も服を寄付するなど、携わってくれる卒業生もおり、先輩から後輩へと良い取組が引き継がれている。

また、最近、衣だけでなく食の大切さも痛感している。今年からフードバンクにも協力しており、食の提供を行うイベントの際には子供服の譲渡等も行っている。

他にも、消費者まつりやとくしま SDGs シンポジウム、エシカル甲子園等にも参加させていただき、徳島県だけではなく、全国にむけて我々の活動を発信させていただく機会をいただいた。

全校生徒約 170 名の小さな学校で、コツコツ活動を継続してきたが、この活動を継続してきて良かった、と感じた 1 年であった。来年度も継続していきたいと思っているのでご指導お願いしたい。

○オージージャパン株式会社

弊社は昨年 3 月に県内にある桐箱製造会社の事業承継を行った。今こそ脱炭素・脱プラスチック容器の時代であるのに、経営者がご高齢であることや後継者が不在といった理由で廃業するのは非常にもったいないという想いがあった。これから、買い物をするときは環境に優しく、かつ、我々の体にもやさしい、そして廃棄するときも有害な物質を排出しない、そうした素材として木材を見直していただきたい。今後は SNS 等を通じてそのような木材の魅力や想いを発信して参りたいと取り組んでいる。

○石井町

昨年、未来フェスタ in 石井という子ども向けのイベントを開催した。同イベントでは「譲りますコーナー」を設けたところ、おもちゃや服等、色々なものが集まった。また役場ではフードバンクポストを設置しており月に数回フードバンク徳島さんに提供している。

○NPO 法人徳島県消費者協会

消費者協会としては県下全体で秋に一斉食品ロス削減キャンペーンを行った。他のイベ

ントでは消費者まつりで地産地消の物品販売ブースを設置し、各地域の農産物や障がい者施設の作品等を出品・販売した。また、協会の啓発用 DVD やパネルの貸し出し、各地区・協会の取組としてパネル展示・エコバックの配布等も行った。他にも、環境アドバイザーやエコみらいとくしまの職員に県内各地で講演をいただく等、全県下でエシカル消費に関する取組を行った。

○講評（アドバイザー：（一社）日本エシカル推進協議会 中原名誉会長）

皆様、大変良い取組だった。本日の取組発表のなかで、フードバンクや服の寄付、物の譲渡等といった取組紹介がたくさん出たが、そういった取組の必要性が高まっているのではないかと感じた。近々、G7 が開催されるが、G7 の中で、未成年の死因として上位に自殺があがるのは日本だけだと聞いた。次世代を担う子ども達の自殺が増えてきているのは、子ども達が置き去りにされている証拠なのではないか。思えば、徳島県・消費者庁の共催で 2019 年に G20 消費者政策国際会合が徳島で開催された。あれから、コロナ、ウクライナといった国際的な大きな問題が次々とおきた。そのように混乱した社会の中で、子ども達の気持ちが揺れ動いているのではないか。我々は、エシカル消費や消費者教育を通じ、子ども達にどのようなアプローチができるのか、または、どうアプローチすべきなのか。昨年開催された、とくしま国際消費者フォーラム 2022 のセッションでも話題にあがったが、Z 世代が抱える特有の問題やデジタルエシカルの必要性等も紹介された。家庭・学校・社会の中で、どのように子ども達が生き抜いていけるか、我々も考えていく必要があると感じた。誰一人として取り残さない、ということは、どのようなことがあっても、生きていくということ。消費者問題、消費者教育における課題として、我々大人も考えていくべきである。